



平成25年3月26日
東京消防庁広報課

第九消防方面本部消防救助機動部隊が発隊します

～八王子市にNBC災害にも対応できる第5のハイパーレスキューが誕生～

消防救助機動部隊（愛称「ハイパーレスキュー」）は、阪神・淡路大震災の教訓から、通常の消防力では対応困難な災害等に迅速に対処するための部隊として、平成8年12月に創設され、現在4部隊を整備しています。

東日本大震災での教訓から、大規模複合災害に備え、東京都の防災力をさらに強化するために、平成25年3月30日に東京消防庁で5番目となるハイパーレスキューが発隊し、運用を開始します。

この部隊には、NBC災害の専門部隊である第三消防方面本部消防救助機動部隊との相互補完体制を構築するため、通常のハイパーレスキューの装備の他に、鉛板及び水槽でボデーを覆い、放射線防護機能を有した「特殊災害対策車」や、陽圧機能を有し、悪路走破性が高い6輪駆動の「高踏破偵察車」などが整備されています。

運用を開始するにあたり、下記のとおり発隊式及び訓練披露を実施いたします。

- 1 日時
平成25年3月30日（土）10時00分より11時55分まで
- 2 場所
八王子市役所体育館及び駐車場（別図参照）
八王子市元本郷町3-24-1
- 3 式次第
別表のとおり

4 列席者

(1) 来賓

東京都知事、都議会議長、八王子市長ほか

(2) 当庁

消防総監、警防部長、企画調整部長、第九消防方面本部長ほか

5 部隊の概要

別添え1のとおり

6 取材について

- (1) 取材を希望される場合は、3月29日（金）12時00分までに東京消防庁（広報課報道係）までご連絡ください。
- (2) 取材時は必ず自社腕章を着用してください。
- (3) 事前レクチャーを当日9時30分から式典会場にて行いますので、それまでに受付を済ませてください。（別図参照）
- (4) 駐車場は各社1台分のスペースしかございません。（別図参照）
駐車券が必要になりますので必ずご持参ください。
- (5) 式典及び訓練の進行上、取材エリアが制限されますので、ご協力をお願いいたします。

「2020年の東京」への実行プログラム2012事業

本件は、「2020年の東京」への実行プログラム2012において、以下の目標・施策に指定し、重点的に実施してきた事業です。

目標1 「高度な防災都市を実現し、東京の安全性を世界に示す」

施策2 「自助・共助の力を最大限に活かし、被害の最小化と都市機能の早期回復を目指す」

配布先

消防記者クラブ

都庁記者クラブ

問合せ先

（東京消防庁代） 電話 3212 - 2111

広報課報道係 内線 2345～2349

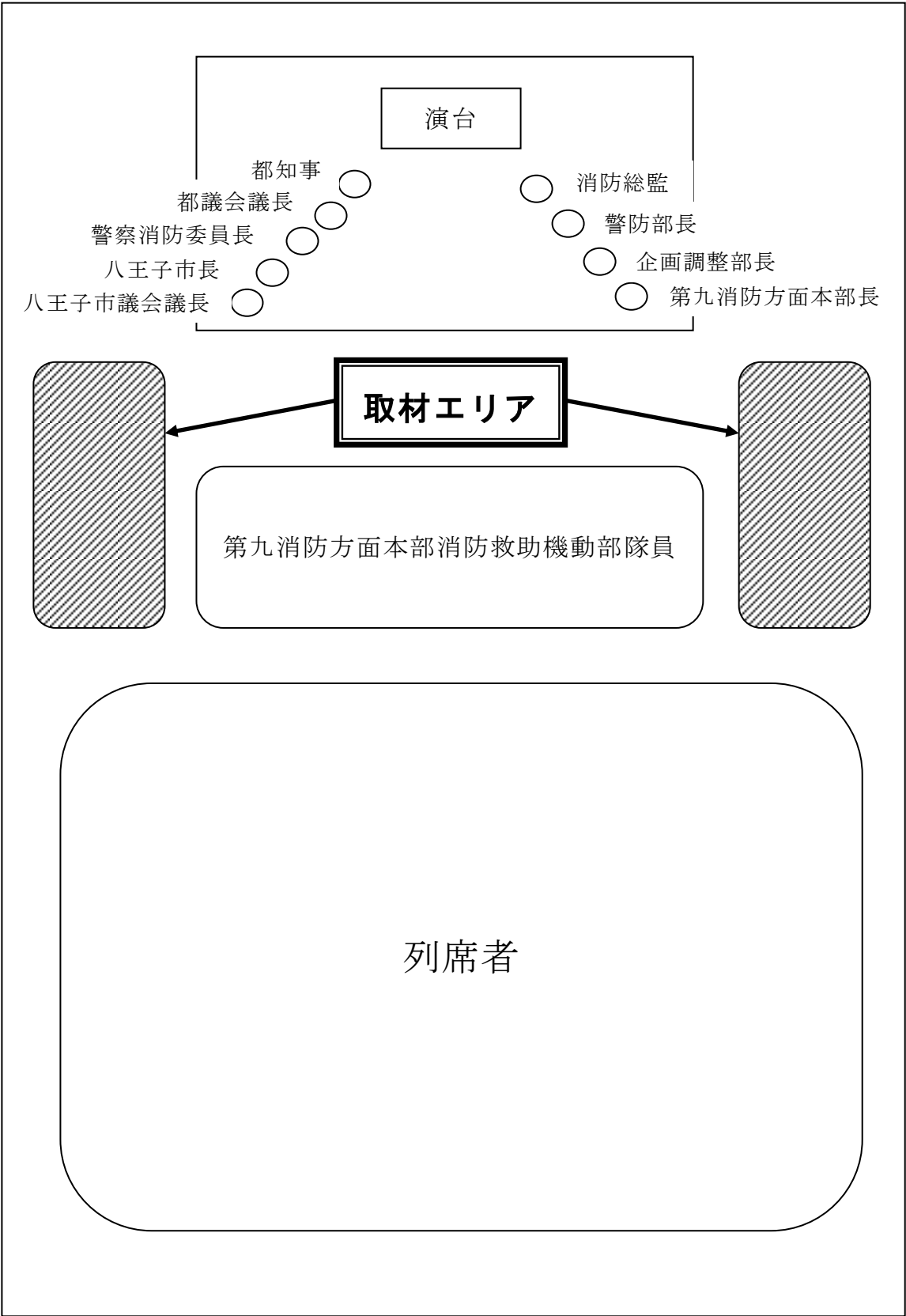


別 表

発 隊 式 次 第

時 間	演 目	内 容
10時00分	開 式	
10時01分	国 歌 斉 唱	
10時03分	部 隊 旗 授 与	消防総監から総括隊長（石井泰弘）へ
10時05分	消 防 総 監 訓 示	消防総監 北村吉男（きたむら よしお）
10時09分	知 事 告 辞	東京都知事 猪瀬直樹（いのせ なおき）
10時14分	祝 辞	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都議会議長 中村 明彦 ・ 都議会警察消防委員長 山加 朱美 ・ 八王子市長 石森 孝志 ・ 八王子市議会議長 水野 淳
10時36分	宣 誓	部隊員代表 消防副士長 岸本 祥平
10時39分	閉 式	
徒歩で訓練会場（八王子市役所駐車場）へ移動		
11時00分	訓 練 開 始 報 告	
11時05分	総 合 訓 練	1 放射能事故対応訓練 2 毒劇物事故対応訓練 3 毒劇物火災対応訓練 ※詳細は資料（別添え2）を参照してください。
11時35分	運 用 開 始 報 告	第九消防方面本部長が消防総監に運用開始報告を行います。
11時40分	訓 練 終 了	
11時45分	マ ス コ ミ 取 材	八王子市役所1階ロビーにて猪瀬東京都知事が取材を受けます。

発隊式式典会場レイアウト（八王子市体育館）



別 図

付 近 図



会 場 図



1 概要

東日本大震災から得られた教訓を踏まえるとともに、発生が懸念される首都直下地震、東海・南海・東南海連動地震等による大規模複合災害発生に備え、東京都の防災力をさらに強化するため、専門知識・技術・装備を備えた消防救助機動部隊を平成25年3月30日(土)に発隊させます。

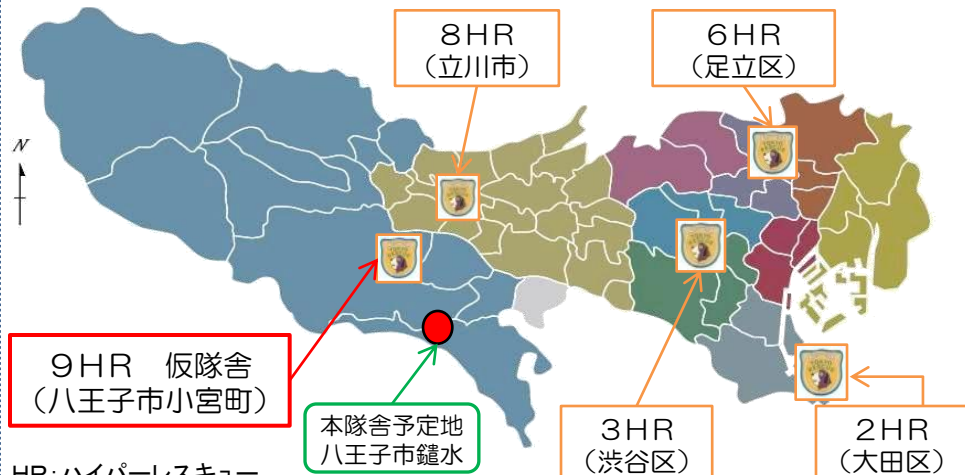
2 新たに整備する消防救助機動部隊のコンセプト等

第九消防方面本部消防救助機動部隊基本コンセプト

地域の消防力強化＋特殊災害対応＋NBC災害対応



消防救助機動部隊の配置状況

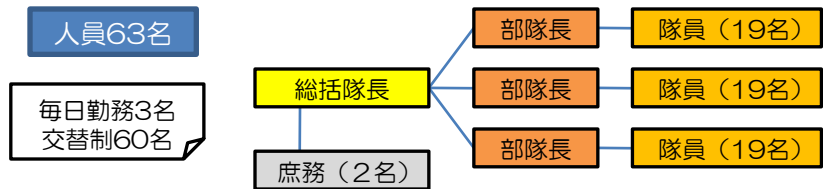


3 配置車両

合計17台



4 人員構成



5 増設の効果

- 部隊周辺地域の災害に対する消防力の強化を図れる。
- 震災等の大規模複合災害に対して、一層迅速かつ的確な対応が可能となり、被害の軽減を図れる。
- NBC災害への対応力が向上するとともに、特別区にある第三消防方面本部消防救助機動部隊と相互補完体制が確保できる。

放射能事故対応訓練 想定

- ・ 放射性物質を搬送中のトラックと乗用車の交通事故により、放射性物質搬送容器が路上に散乱し、周囲には高い放射線が漏えいしている。
- ・ 乗用車の運転手1名が車内に閉じ込められ、脱出不能となっている。

【対応概要】

- ①消防ヘリコプターによる先遣隊投入（市役所屋上にホイスト降下）
- ②特殊災害対策車（CS1）・検知ロボットによる情報収集活動
- ③放射能防護衣を着装した隊員による3班編成での活動
 - 第1班～放射線の測定・鉛シートによる放射線の遮蔽
 - 第2班～救助資器材による救助活動（要救助者の救出）
 - 第3班～要救助者の車内収容（CS1に収容）



特殊災害対策車（CS1）



検知ロボット



放射能防護衣

放射能事故対応訓練



取材エリア

②検知ロボットによる
情報収集

③R | 事故現場からの
救出活動



①ヘリコプター
による
先遣隊投入

毒劇物事故対応訓練 想定

毒劇物施設のH鋼が倒れ、作業員数名が下敷きになっている。さらに、毒劇物貯蔵タンクが損傷し、内部から毒劇物が流出しており、周囲に汚染危険が発生している。



毒劇物貯蔵タンク

【対応概要】

- ①偵察車（CS3）・救助車による測定器を活用した情報収集活動
（偵察車が悪路を走行後、各車両から隊員を投入）
- ②消防ヘリコプターによる陽圧防護衣を着装した隊員の大量投入
（浅川河川敷に着陸）
- ③救助資器材による救助活動
（遠隔操作が可能な重機等を活用した活動）
- ④除染車（CS2）による除染活動
（救助した人を除染車内で除染）
- ⑤消防ヘリコプターによる傷病者搬送
（市役所屋上からのホイスト救出）



毒劇物防護衣



陽圧防護衣



除染車（CS2）

毒劇物事故対応訓練

②ヘリコプター
による隊員の大量投入



取材エリア

③毒劇物事故現場から
の救出活動



①情報収集活動



④除染車による除染活動



⑤ヘリコプター
による
ホイスト救出

毒劇物火災対応訓練 想定

損傷した毒劇物貯蔵タンクから火災が発生する。

【対応概要】

- ①遠距離大量送水システム（PS1・2）による遠距離大量送水活動
- ②毒劇物防護衣を着装した隊員によるホース延長活動
（屈折放水塔車・無人走行放水車への送水）
- ③屈折放水塔車・無人走行放水車（ドラゴン）による消火活動



遠距離大量送水システム（PS1・2）



屈折放水塔車



無人走行放水車（ドラゴン）

毒劇物火災対応訓練

